

No.440



研 究 所 通 信

● ホームページアドレス <https://blhrrri.org>

2025年8月21日(木)～22日(金)

第56回部落解放・人権夏期講座(高野山夏期講座)を開催します

弘法大師空海が開いた日本を代表する真言密教の聖地高野山で、1971年の第2回目から開催される人権問題学習の講座。毎年8月に2日間で開催され、開催後、期間限定で一部の講座を動画配信します。



◀「高野山大師教会」
今年度は、会場が高野山大学の教室から高野山
大師教会の中講堂に変更になりました。

講座の案内は7ページに掲載しています。多くの方のご参加をお待ちしております。

もくじ

理事からのメッセージ / 坂田かおり理事	・ 2	第46回人権・同和問題企業啓発講座 ご案内	・ 8
第1研究部門「部落史の調査研究」公開講座 報告	・ 4	世界人権宣言大阪連絡会議	
2025年度第1回理事会・総会 報告	・ 5	第42回総会・記念シンポジウム 報告	・ 9
賛助会員証明書の発行開始 / 新人紹介	・ 6	集会ふれあい記 第18回沖縄編	・ 10
第56回部落解放・人権夏期講座 ご案内	・ 7	参加者募集 / 事務局便り	・ 11

理事からのメッセージ

人権リアル余談ですが。

理事 坂田 かおり



お笑い芸人の“かまいたち”がMCを務めるテレビ番組「これ余談なんですけど…」は大好きなんです。ゲストの芸人さんたちが披露するのは、個人的に体験した小さな一見つまらない役に立たなさそうな話がほとんどです。しかし、それらの余談は生身の肉体を通して得た超個別具体的なものであるからこそ、体温やニオイまで感じさせる面白さに溢れます。人間だものなあ…と、妙に納得させられるのです。

私のこれからの話は、そんな寄せ集めにすぎません。でも、そこから浮かび上がるテーマや問題は、机上のものではなく、日常の実感を伴ったとても大切な現実だと思います。…と、言い訳を並べた上で本題に入ります。

(余談1) 当事者

先月のことです。居酒屋での仲間との飲み会で、やらかしました。酔っていたわけではないのですが、トイレに立とうとした際、カバンの持ち手に足を引っ掛け転倒、膝の靭帯を損傷し車椅子を使用することになりました。

研修会場の2階に上がりたいのにエレベーターが動いていない。エレベーター前には「ご利用になるときは事務所にお声掛けください」と、昨日は全く気づかなかった（視野に入らなかった）張り紙。自分が車椅子を利用して気づくことの多さに改めて、当事者との距離を感じました。これって、障がい者問題だけではありませんよね。あらゆるマイノリティ問題に通底するものだと思います。

(余談2) 3人寄れば

いきなりですが、20数年前に戻ります。保育所に通う子どもをもつ母親A・B・私の3人が集まりました。Aさんの息子Cちゃんは脳性麻痺に加えて肢体不自由。Bさんの娘Dちゃんはダウン症。そして部落にルーツをもつ私の娘。それぞれ背負っているものが違う。「大きくなったら野球がしたい」と夢をもっているCちゃん。Cちゃんのお母さんであるAさんからみれば、走れるDちゃんが羨ましい。Dちゃんのお母さんのBさんから見れば、みんなと一緒に勉強できるCちゃんが羨ましい。障がいのある子どもを育てる親の気持ちは私にはわからない。部落にルーツをもつわが子が差別にあったらどうしよ

う…私たちの不安や恐怖は2人にはわからない。泣きながら一晩中思いの丈を語り合いました。大きな経験でした。お互いの心の声を聴くことで立場の違いを越えて「お互い命がけて産んだわが子。差別されていい命はない!」と確信しました。私たちは今も何でも話し合える仲間であり続けています。

(余談3) さまざま それぞれ

同和地区担当生活相談員だった20年前のことです。ひとりのフィリピン出身のお母さんと出逢いました。子育て・教育・生活、あらゆる面で悩みはつきない。「フィリピン帰れ」といじめられる子どももありました。異国で生きていくことのリアルな現実。私は、識字・日本語教室を立ち上げました。日本で生きるためには言葉の理解が絶対条件です。日本語の学習を通して、人とのつながりも少しずつ生まれていきました。フィリピン料理と和食は全く違います。お互い知らないことや分からないことがいっぱいありますが、心から寄り添うことで子どもたちに笑顔が戻っていきました。今、ガソリンスタンドで働いたり、子育てに励んだり、さまざまな人生を精一杯生きています。

(余談4) 結婚差別

山陰地方では、狐が人間に憑依することによって災いが起こると長い間信じられてきました。狐憑き、とつくと死語になっているはず。数年前のこと、親戚のおばさんが家に飛び込んできました。「ちょっと聞いて!」おばさんの親族が結婚の約束をした女性を罵ります。「あの子はダメ!結婚なんてとんでもない。あそこの家は狐憑きよ」このおばさんの一言で、家族は大分裂、愛が憎しみへと変わり…。実は、私の実家でも狐憑き差別がありました。40年も昔のことです。私の兄(2021年に64歳で他界)は20歳過ぎの頃、狐憑き差別に苦しめられました。兄が付き合っていた彼女のお姉さんの結婚相手の家が狐憑きといわれる家だったのです。母は大反対!「狐が憑くから怖い、絶対ダメだ!」当時まだ中学生だった私は母に訴えました。「差別される苦しみを知っている部落の人間が差別するな!」母は「部落よりもっと悪い!おまえは子どもだから知らないんだ!」母は真顔で続けます。「お母ちゃんは子どもの頃に見た。橋の袂にいた小さな狐が家までついてきて縁の下に入った」「屋根の上にピンク・青・赤の水玉模様の狐がいた」など、馬鹿馬鹿しい話です。そして最後に「おまえは子どもだから分かんのだ!」と吐き捨てました。「おまえは子どもだから!」は、あらゆる差別問題で共通して使われる言葉です。強いられる刷り込み。偏見差別の温床です。全国各地に犬憑き・蛇憑き・カッパ憑きなどたくさんの憑き物差別があることを知りました。

余談を貫く軸は私の活動の芯でもあります。それは、人間は平等であるべき、つながる温かな関係をもつべき、豊かに生きるべき…差別を許さない社会を見据えて。

報告

第1研究部門「部落史の調査研究」

第51回公開講座「慶応四年、京都空也堂による紀伊国末派鉢家組織化についての考察」

第1研究部門の第51回公開講座は、2025年4月12日(土)に開催され、「慶応四年、京都空也堂による紀伊国末派鉢家組織化についての考察」を報告しました。

まず、元和5年(1619)以降の紀伊国の領主支配について、紀伊徳川家を藩主とする紀州藩374,245石と高野山寺領21,300石に大別され、紀州藩領は本藩領(表領)と付家老安藤氏が支配する田辺領、付家老水野氏が支配する新宮領に三分されることを説明するとともに、慶応4年(1868)1月14日に安藤・水野両家は「藩屏の列」に加えられて、田辺藩と新宮藩が成立し、旧紀州藩領は和歌山藩・田辺藩・新宮藩が分立した点を強調しました。

次に、田辺領内では安政6年(1859)、13か所に409人の「鉢坊」(隠坊)身分の者が居住しており、明治4年(1871)7月には田辺藩の役人は「隠坊は平民より一段劣り、皮多よりは少し上の者」という認識を示していたこと、明治2年(1869)2月に行われた宗門改めでは、平人は部屋の中に入って改めを受けるのに対して、非人番と鉢坊は部屋に入ることが許されず内庭(土間)で改めを受け、皮多は内庭へ入ることも許されず掾先の庭で改めを受けるといふ、制度的な身分差別の序列が顕然化していた点を明らかにしました。

そのような田辺藩領内の鉢坊を末派の

「鉢家」として組織化することを目的にして、京都の空也堂は慶応4年4月、役人と使僧を田辺へ派遣、領内11か所の惣代を田辺の宿所に呼び出し、平安時代の空也上人に助命・教化された弟子の末裔であるという由緒と本山の空也堂が示す条目を教諭するとともに、西ノ谷村の鉢坊3人を触頭とする体制を構築して、末派連印帳に捺印させます。

但し、組織化の対象は、『紀州田辺御用留』が記すような田辺藩領内に留まるものではなく、南は表領口熊野代官所管内の4か所、北は表領日高郡代官所管内の8か所に、それぞれ住む聖を説諭して末派連印帳に捺印させています。けれども、空也堂の役人は表領の有田郡湯浅では説諭に失敗し、紀北に立ち寄ることなく直ちに帰京しました。

これは、紀北の三昧聖が奈良時代に活躍した行基の弟子の末裔であるという由緒を持っており、空也堂にとって組織化の対象にはなり得なかったからだと考えられます。

討論では、鉢坊が営む生業(葬送、農業、竹細工、梓巫女)の様相、空也堂が慶応4年の時点で紀伊国鉢家の組織化に着手した要因などについて意見が交わされました。

(藤井 寿一/第1研究部門 運営委員)

2025年度 第1回理事会および総会報告

2025年5月14日(水)に2025年度第1回理事会が開催され、事業報告、決算報告、価格改定などが承認されました。

当研究所は、新型コロナウイルス感染拡大以降、オンライン化に迅速に対応し、物価高騰にも講座受講料や出版物価格の見直しなどで経営の安定化に努めてきましたが、2024年度の決算は厳しい結果となりました。今後も支出の見直しや価格改定を進め、財政健全化を図ります。

主な調査研究では、第四研究部門「差別禁止法研究会」にて「包括的差別禁止法案」の内容検討を継続し、『差別禁止法の制定を求めて』を2025年3月に刊行しました。第五研究部門では、2021年度に実施したアンケート結果をもとに、各地の府県隣保館連絡協議会に対して「人材育成アンケート調査」を実施し、その結果を「全隣協ブロック統一学習会」で報告しました。

人権人材育成事業では、第120期部落解放・人権大学講座と第37回人権啓発東京講座を開催しました。人権啓発事業では、第49回部落解放・人権西日本夏期講座(大分県別府市開催)、第55回部落解放・人権夏期講座(和歌山県高野町開催と一部オンライン開催の併用)、第45回人権・同和問題企業啓発講座第1部・第2部(オンライン開催)、第39回人権啓発研究集会(奈良県橿原市開催)の実行委員会事務局を務め、講座成功に向けて取り組みました。

これらの議案は、6月25日(水)の第14回総会で提案・審議され、承認されました。ご協力ありがとうございました。(佐藤 晃司)

＝ 2026年度(2026年4月)からの価格改定のお知らせ ＝

財政状況の改善をはかるため、賛助会員年会費、刊行物の販売価格について、下記のとおり価格改定を行います。皆様にはご負担をおかけいたしますが、何卒ご理解を賜りますよう、お願い申し上げます。

● 賛助会員 年会費	2025年度の年会費まで 50,000円(非課税)
	2026年度の年会費から 60,000円(非課税)
● 月刊『ヒューマンライツ』	456号(2026年3月刊行)まで 1冊 660円(税込)
	457号(2026年4月刊行)から 1冊 770円(税込)
● 『部落解放研究』	224号(2026年3月刊行)まで 1冊2,200円(税込)
	225号(2026年11月刊行)から 1冊2,750円(税込)
● 『全国のあいつぐ差別事件』	2025年度版まで 1冊 2,200円(税込)
	2026年度版から 1冊 2,750円(税込)



賛助会員企業・団体様への重要なお知らせ 賛助会員証明書の発行をはじめました

2025年度より、研究所では賛助会員証明書の発行を開始いたしました。

近年、企業の社会的責任への注目が高まる中、特に人権に対する取り組みがますます重要視されています。貴団体が人権尊重の取り組みを示すことは、企業・団体としての信頼性を向上させ、社会的な評価や信頼を得る一助となります。

賛助会員証明書は、貴団体が研究所の賛助会員であることを正式に証明するもので、貴団体の人権への取り組みを示す一つの証となります。この証明書を活用することで、企業・団体のイメージの向上や、取引先、顧客との信頼関係の強化にもつながります。

ぜひ、この機会に証明書の発行をご検討いただき、貴団体の人権への取り組みを広くアピールしていただければと思います。

今後とも、研究所は賛助会員の皆様の活動をサポートし、より良い社会の実現に向けて共に歩んでまいります。

※本証明書の発行をご希望の場合は、右記の二次元バーコードまたは下記URLより、お申し込みください。<<https://ws.formzu.net/fgen/S38458904/>>



新人紹介

今年、2月より入職しました植松英子と申します。私は、子育てのなかでPTAや地域活動に関わり、そのなかで人権講座に参加するようになりました。参加する前は「人権って何?」「人権教育って?」と優先順位は低かったのですが、いざ参加したら「知らなかった!」「人権っておもしろい、人権講座って聞かないと損や!」「みんなも一緒に聞いたらいいのに」と感動したことを覚えています。少数者の抱える困難や差別の実態は、気づこうとしないと気づけない、私は気づかずにいられる立場にいたることを知りました。そして気づくためには学ぶことが必要であると知りました。今も、地元、豊中市で人権教育・啓発を推進する市民団体で活動をしています。私にとって部落解放・人権研究所が入っているHRCビルは、人権団体が集結する人権啓発のメッカのようなところなんです。ここでの新しい学びを通じて成長していきたいと思っています。差別のない社会の実現のために少しでもお役に立てたら幸いです。



うえまつ ひこ
植松 英子

第56回部落解放・人権夏期講座 ご案内

〈会場開催〉8月21日(木)、22日(金) 高野山大学、高野山大師教会(和歌山県伊都郡高野町)
〈動画配信〉9月9日(火)～10月10日(金)

視聴サイト Vimeo *動画に自動で字幕が表示される機能があります。
視聴可能講演 6講演(全体会の黎明館開催3講演+配信のみ3講演)

◆参加費 8,000円(参加・資料代、税込)

◆主催 部落解放・人権夏期講座実行委員会

※「会場+動画配信」「動画配信のみ」のいずれかを選んでお申込みください。

※当講座の詳細、参加申込方法、お問い合わせは(一社)部落解放・人権研究所のウェブサイトをご確認ください。

●は会場講演 ◎は動画配信講演

- ◎「アファーマティブ・アクション(積極的差別是正措置)とは何か? 米国の取り組みから考える」 南川 文里(同志社大学大学院教授)
- ◎「炎上社会を考える」 伊藤 昌亮(成蹊大学文学部現代社会学科教授)
- ◎「敗戦80年 私たちの戦後責任」 加藤 圭木(一橋大学大学院社会学研究科教授)
- 「激変する情報環境の視点でメディアと人権を考える ―生成AIとSNSの進化をふまえて―」 北口 末広(近畿大学人権問題研究所特任主任教授)
- 「障害はどこにある? ―諦めの人生から抜け出せ!―」 三井 孝夫(NPO法人自立生活センター・リアライズ理事長)
- 「私たちも避難所に避難してもいいですか?」 安面 美樹(LGBTQと愉快な仲間たち)、高瀬 和代(性被害者支援コユニハ)
- 「国際法とか国際人権法って使えるものなのですか? ―基礎から現在地まで―」 谷口 真由美((一社)部落解放・人権研究所理事)
- 「反同性愛、そして反トランスへ 性的マイノリティの人権と日本政治の10年」 二階堂 友紀(朝日新聞記者)
- 「「行政による人権侵害」を考える」 宮崎 理(明治学院大学社会学部准教授)
- 「「部落地名総鑑」差別事件発覚50年と部落差別 ―過去・現在・未来の視点で―」 北口 末広(近畿大学人権問題研究所特任主任教授)
- 「深刻化する在日クルド人ヘイトの現場」 安田 浩一(ノンフィクションライター)
- 「「同対審」答申が今の私たちに問いかけるもの」 奥田 均(近畿大学名誉教授)
- ◎「熊本県人権センターの人権学習 ―人権啓発Web講座の取り組み―」 熊本県環境生活部県民生活局人権同和政策課
「動画配信プラットフォーム等を活用した人権啓発の取組について」(公財)反差別・人権研究所みえ
- ◎「在日コリアンの歴史と差別 ―戦後80年を中心に―」 文 公輝(NPO法人多民族共生人権教育センター事務局長)
- ◎「障がいのある人の政治参加 ―日本で唯一の車椅子県議としての経験から―」 安樂 英美(NPO法人CDPCサポート理事長(元鹿児島県議会議員))
- 「フィールドワーク「高野山の歴史 ～「平等と差別」を中心に～」 木下 浩良(高野山大学密教文化研究所受託研究員、清浄心院高野山文化歴史研究所所長)

第46回

人権・同和問題企業啓発講座 オンライン講座

配信期間

2025年
第1部 10月1日(水) 10時から 10月31日(金) 17時まで

2025年
第2部 11月4日(火) 10時から 12月5日(金) 17時まで

*第1部・第2部 各4講座 計8講座 (各講座70分程度)

視聴サイト Vimeo *動画に自動で字幕が表示される機能があります。

受講料 第1部・第2部 両方の受講 **10,000円** (参加・資料代、税込)
第1部・第2部 いずれかのみ **5,000円** (参加・資料代、税込)

主催 第46回人権・同和問題企業啓発講座実行委員会

*当講座の詳細、参加申込方法、お問い合わせは(一社)部落解放・人権研究所のウェブサイトをご確認ください。

第1部

「「部落地名総鑑」差別事件50年一改めて事件の経過、とりくみ、歴史的意義を考える」 友永 健三 ((一社)部落解放・人権研究所名誉理事)

「選択的夫婦別姓をめぐる国内外の動向と組織の責任 —ジェンダー平等の実現に向けて」 棚村 政行 (早稲田大学名誉教授/(井)早稲田大学リーガル・クリニック所長・弁護士)

「理不尽な声にどう向き合う? —カスタマーハラスメントをめぐる法整備と実務対応」 内藤 忍 ((独)労働政策研究・研修機構副主任研究員)

「メディアが問われる時代に、私たちが問われていること —情報との向き合い方を考える」 鎮目 博道 (テレビプロデューサー/コラムニスト)

第2部

「誰もが力を発揮できる職場に —発達障害と就労支援の最前線」 木村 志義 ((一社)ベガサス代表理事)

「女性差別を知り、ジェンダー平等を築く未来へ」 林 陽子 (弁護士/元国連女性差別撤廃委員会委員長)

「移民労働者と共に生きる社会へ —特定技能・育成就労制度から考える多文化共生の未来」 高谷 幸 (東京大学大学院人文社会系研究科准教授)

「透明な脅威:PFAS汚染が問いかける企業と社会の未来」 原田 浩二 (京都府立大学生命環境科学研究科教授)

世界人権宣言大阪連絡会議第42回総会・記念シンポジウム

第4回「みんなの人権・映像フェスティバル」登壇者と会場が一体となりました

2025年4月22日(火)、世界人権宣言大阪連絡会議第42回総会と記念シンポジウム(第475回国際人権規約連続学習会)が大阪市立こども文化センターにて開催されました。2025年度は、1.世界人権宣言に基づき、あらゆる戦争・暴力を否定する 2.国際人権諸条約の実施と批准促進をめざす 3.人権を保障する法制度の実現をめざす 4.「ビジネスと人権に関する行動計画」(2020-2025)の具体化を求める 5.人権教育・啓発を推進するという方針のもと、事業を進めていくことが決議されました。

記念シンポジウムでは、第4回「みんなの人権・映像フェスティバル」の入賞作品の上映前の審査委員長の総評で、これまでは「思いやり」や「共生」をテーマにした作品が多かったのに対して、今回は「問題提起型」の作品が増え、「これは人権課題だ」と考え、その解決を社会に訴えようとする人たちの作品



が増えたと述べられました。シンポジウムの進行役は、審査委員長のお笑い芸人せやろがいおじさんと世界人権宣言大阪連絡会議の森実代表幹事で、大賞作品を制作されたひらいまことさん(おくやまプロジェクト)、優秀賞の井上由紀夫さん、特別賞の金成日さんが登壇しました。「差別のない人権社会にむけて」をテーマに映像作品を作るなかで、伝えたかったこと、気づいたことなどが語られました。会場からは、映像に出演していた障害者家族の方から、「自分たちは決して不幸ではない、でも悔しい思いも山ほどしている」などと思いが訴えられ、マジョリティ側の姿勢を考えさせられました。また、世界人権宣言大阪連絡会議の谷川雅彦前事務局長から、映像フェスティバルの意義について、世界人権宣言や人権条約よりももっと身近な日常生活の中で感じている差別や理不尽など、人権をテーマにした個人の声を発信できる取り組みであるなどと語られ、充実したシンポジウムになりました。

第4回映像フェスティバルの入賞作品は、世界人権宣言大阪連絡会議のYouTubeチャンネルにて公開中です。下記のURLまたは二次元バーコードからご覧頂けます。

(植松 英子)



https://blhrri.org/topics/topics_shosai.php?topics_no=1890

であい
つながり

集会ふれあい記

第18回
沖縄編

6月12日(木)、13日(金)に沖縄県那覇市で「第50回部落解放・人権西日本夏期講座」を主催実行委員会の事務局を担い開催しました。関係者および参加者の皆さまには改めて御礼を申し上げます。

本講座の参加券を提示することで、団体割引料金で入館できるようご協力いただいた沖縄本島内のいくつかの平和・人権に関する施設があります。13日の講座終了後、その協力施設のひとつである対馬丸記念館を訪れました。

太平洋戦争の最中である1944年8月21日、約1800人を乗せて那覇港を出港した学童疎開船「対馬丸」が、アメリカの潜水艦ボーフィン号による魚雷攻撃を受け、撃沈されました。対馬丸記念館では、この痛ましい事件の記録と、その背後にある歴史の教訓が伝えられています。

「対馬丸」には、多くの子どもたちが未来への希望を抱いて乗船していました。その夢や命が奪われた事実、私は強い衝撃を受けました。戦争は、罪のない人々の人生を突然切り切り、日常さえも容赦なく奪ってしまいます。その残酷さを、展示の一つひとつから深く感じました。

また、対馬丸襲撃事件を生き延びた人々には撃沈の事実を語らないよう「かんこうれい箱口令」が敷かれ、自身の被害、仲間を失った悲しみや恐怖を語ることすら許されませんでした。当時は細部にわたる被害実態調査も行われず、正確な被害の全容はいまだ不明のままです。語ることを封じられたまま、重い記憶を心に抱え続けてきた方々の思いを想像すると、胸が締めつけられます。

さらに、撃沈から49日目には、沖縄の南西諸島が無差別爆撃にさらされ(十・十空襲)、遺品や遺影までもが焼き尽くされました。悲しみに浸る暇もなく、対馬丸襲撃事件で大切な人を失った人々もまた戦争に巻き込まれていったのです。

沖縄戦では住民に甚大な被害がもたらされ、焼かれたもの、失われたものの多さは計り知れません。しかし、そのとき確かに生きていた人々の思いや声は、決して戦火とともに消してはならないと強く感じました。2025年は戦後80年の節目にあたります。過去の悲惨な記憶を風化させず、私たち一人ひとりがこの歴史から何を学び、どう生きるかを考え続けていきたいと思います。

(S)

参加者募集!! 2025.7～2026.1 研究所カレンダー

7/18(金) 第121期部落解放・人権大学講座 開講式(～2026/2/6(金))

@大阪・動画視聴(オンライン)

7/23(水) 第38回人権啓発東京講座 開講式(～11/21(金))

@東京・動画視聴(オンライン)

7/30(水) 第478回国際人権規約連続学習会 @HRCビル

「あした元気になあれ ～部落差別の現在(いま)」

松村 智広さん(みえ人権教育・啓発研究会) × 森 実さん(大阪連絡会議代表幹事)

8/21(木)-22(金) 第56回部落解放・人権夏期講座 @和歌山県高野町

9/9(火)-10/10(金) 第56回部落解放・人権夏期講座 @動画視聴(オンライン)

9/26(金) 第479回国際人権規約連続学習会 @HRCビル

「死刑制度を考える」

藤原 敏道さん(アムネスティ・インターナショナル日本 死刑廃止ネットワーク大阪コーディネーター)

9/27(土) 第1研究部門第53回公開講座 @HRCビル

テーマ：部落問題文学

後藤田 和さん(広島商船高等専門学校講師)

10/1(水)-31(金) 第46回人権・同和問題企業啓発講座 第1部

@動画視聴(オンライン)

11/4(火)-12/5(金) 第46回人権・同和問題企業啓発講座 第2部

@動画視聴(オンライン)

2026/1/28(水)-29(木) 第40回人権啓発研究集会 @群馬県前橋市



3月公開の映画『ウィキッド ふたりの魔女』を何度も観に行った。物語は緑の肌の魔女・エルファバを中心に展開し、彼女が差別を受け続ける姿が描かれている。外見や能力で排除されることが多く描かれ、これは人種、外見、出自に基づく社会的排除を象徴しており、現実世界における偏見や排他主義への痛烈な批判的メッセージとなっている。

また、権力者による情報操作や抑圧も重要なテーマだ。権力者が圧倒的な力を使い、民衆を操り、エルファバたちを抑圧する場面が描かれている。権力の濫用や社会的抑圧、情報の不正確さがどのように人々を分断し、不公平を生むかを示唆している。

映画の世界を通して、現実世界の問題を反映している本作に惹かれる理由を、今一度考えたい。

(NM)

部落解放・人権研究所とは・・・

「一般社団法人 部落解放・人権研究所」は、部落差別をはじめ一切の差別撤廃をめざした部落解放運動の中で生まれた政策研究機関です。国内外の差別や人権問題の解決に役立つ調査研究事業、人権人材育成事業、人権教育啓発事業、情報発信事業等に取り組んでいます。

入会案内

部落解放・人権研究所は、研究活動に賛同し、参加してくださる会員（個人会員）を募集しています。会員（個人会員）には「A会員」、「B会員」、「学生会員」があります。

「A 会員」 年会費 10,000 円

特典 紀要『部落解放研究』2冊、『ヒューマンライツ』12冊
『研究所通信』4回、「会員ページ」の閲覧

「B 会員」 年会費 7,000 円

特典 紀要『部落解放研究』2冊、『ヒューマンライツ』2冊
『研究所通信』4回、「会員ページ」の閲覧

「学生会員」 年会費 3,500 円

特典 紀要『部落解放研究』2冊、『ヒューマンライツ』2冊
『研究所通信』4回、「会員ページ」の閲覧

また、研究活動を支えてくださる賛助会員も募集しています。

「賛助会員」 年会費 50,000 円

特典 紀要『部落解放研究』2冊、『ヒューマンライツ』12冊
『研究所通信』、『全国のあいつぐ差別事件』、「会員ページ」
の閲覧他



研究所通信 440号 2025年7月1日（奇数月1日発行）

発行所 （一社）部落解放・人権研究所

編集発行人 谷川 雅彦

〒552-0001 大阪市港区波除4-1-37 HRCビル8階

TEL（総務部）06-6581-8530

（調査・研究部）06-6581-8572

（啓発企画部）06-6581-8576

FAX 06-6581-8540

URL <https://blhrri.org>

定価 100円（税・送料込：会員は会費に含む）